



富小評価だより

令和4年9月30日 No.2
富岡市立富岡小学校

令和4年度第1回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。また、皆様からいただきました貴重なご意見を2学期からの学校教育に生かしてまいります。今後もご支援、ご協力をお願いいたします。

令和4年度 学校評価一覧表

【教育目標の達成状況】

観点	評価項目	評価
みんな仲良く	相手や周りのことを考えた言葉遣いができる	A
	自分から進んで挨拶や返事ができる	B
	きまりを守って生活することができる	A
	相手の気持ちが分かり、親切にできる	A
	みんなで協力することができる	A

観点	評価項目	評価
元気に運動	健康に気を付けて生活することができる	A
	進んで運動し体力を高めることができる	B
	安全に気を付けて生活できる	A
	粘り強くやり抜くことができる	B

観点	評価項目	評価
本気で勉強	将来の夢や志をもっている	B
	基礎的な知識及び技能を習得している	A
	主体的に学習に取り組むことができる	B
	知識・技能を活用し課題を解決できる	B

【学校全体にかかわる要望・意見に対する回答】

○保護者の方への回答
【挨拶について】
 挨拶を大切にされるご意見をいただき、心強く感じております。校長自身が率先して挨拶の大切や心地よさを姿で示してまいります。これからも、全校集会や学級活動を通して、地域での挨拶の素晴らしさ（価値）を子どもたちに伝え続けてまいります。ご家庭でもよき習慣づくりに向けて、家族間で挨拶を交わし合うことにご協力をお願いいたします。

【学習について】
 担任及び授業担当者が、単元テストや日々の宿題等の結果を再確認し、個別のアドバイスやICT端末のドリル学習を活用して、基礎基本の理解を支援してまいります。

【コロナウイルス対応について】
 ○マスクの着脱について
 感染症予防と子どもの成長・発達に関するご意見、ありがとうございます。①マスクの着用は、文科省・県教委・市教委からの通知等を踏まえて保護者の方にも対応をお願いしています。体調等により着用が難しい場合は、担任までご相談ください。②熱中症予防のためのマスクの着脱については、教員が場面や姿を示し具体的に指導を継続してまいります。引き続きご家庭でも保護者の方から具体的な指導をお願いいたします。③新型コロナウイルスの危険性については、学校は公的機関が示す情報を基に判断しております。

○昼食後の歯磨きについて
 歯と口腔の健康へのご配慮、ありがとうございます。学校歯科医からは、ブラッシングや口洗浄の飛沫に注意が必要であり、昼食後の歯磨きの再開は慎重にとの助言をいただきました。1学期の生活アンケートでは、朝・夜の歯磨きを行っていない児童が散見されています。う歯予防では、特に就寝前の丁寧なブラッシングをご家庭でご指導ください。歯科治療の関係で、昼の歯磨きが必要な場合は担任までお声がけください。

【アンケートの回答について】
 学校評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。設問や回答の選択肢を年度途中で見直すことについては、次回の評価データとの整合性に支障がない範囲で対応を検討してまいります（年度途中で見直しで課題が生じる場合は、次年度のアンケート作成時に改善してまいります）。

【学校公開日の実施について】
 学校公開日は、本校の取組をご理解いただく場と位置付けております。地域の感染状況の推移を踏まえ家庭や医療機関への影響も考慮しながら、実施方法の工夫や開催の可否を検討してまいります。

【炎天下での活動について】
 校庭に設置した熱中症指数計の数値を基に、数値が危険や嚴重警戒のレベルの場合は、校庭での体育の授業や外遊びを見合わせ、熱中症予防に努めております。また、授業中は、マスクの取り外し、日陰での休憩、小まめな水分補給を適宜行い、児童の体力や水分の消耗の回避を心がけております。

【本年度の努力点についての評価】

※評価の見方… A：十分に成果があった B：成果があった C：少しの成果があった D：成果がなかった

観点	評価項目	評価	成果と課題	2学期の方策
確かな学力向上	学力向上委員会を機能させ、本校の実態に応じた学力向上対策を組織的に継続する。	A	○児童の実態に基づき、運営計画の立案、組織の細分化を図ることができた。 ●各班別部会での取り組みを相互で共有していく必要がある。	・各班別部会での取り組みを共有し、相互で連携できるようにする。 ・児童の実態把握を行い、実態に基づく計画を立てていく。
	的確な実態把握を基に「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業作りや補充学習を通して、生きて働く「知識・技能」の確実な習得を図る。	B	○タブレットを利用、わくスタに取り組むことで、1人1人に合った学習に取り組むことができ、昨年度のC R T学力検査を分析し、苦手分野を把握することができた。 ●教員と保護者に認知の差がある。保護者に対しての周知が不十分だった。	・タブレットの有効な活用、わくスタ、C R T学力検査の結果の分析の継続で個別最適な学びの充実を図る。 ・教員の取り組みの周知をする。
	必要性のある課題を単元を貫いて設定し、体験的な学習や問題解決的な学習を効果的に取り入れて未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する。	A	○児童が必要感を感じられるよう、導入部分を工夫した授業づくりに努めた。 ●話し方・聞き方の指導を行うなど、協働的な学習の場について工夫する必要がある。	・既習事項や前時の授業とつなげて考えられるような授業づくりを、継続して行う。 ・児童同士の学びを深めるために、領きや相づちなど、発達段階に応じた話す力・聞く力の向上を図る。
	学ぶ目的を明確にし、自ら考え、互いに高め合う児童主体の授業を通して、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養する。	A	○児童の実態を踏まえて、必然性のある課題を設定し、児童が主体的に取り組む授業を実践することができた。 ●積極的に家庭への情報発信をしたり、家庭と協力したりして、児童の考えや行動変容が見取れる授業を設定する。	・学年間だけでなく、ブロック間でも情報交換を行う。 ・保護者に学校での取組や授業の様子を積極的に伝えていく。
	小中9年間の学びのつながりを踏まえ、専科教員、ALT、支援員を活用して生きた英語に触れる授業を充実し、楽しみながら英語を学んだり積極的に英語でコミュニケーションを図ったりする態度を育てる。	A	○授業をチームティーチングで行い、児童に対してきめ細かい対応ができた。FunGLISH CAFÉを実施したり、他授業にALTが参加したりするなど、授業以外でもALTと触れ合う機会を作れた。 ●FunGLISH Room用に購入した英語関係の書籍の活用が不十分だった。	・FunGLISH CAFÉに加え、英語での放送や読み聞かせをするなど、さらに日常的に英語に触れる活動を充実していく。 ・高学年に英語書籍の巡回図書を実施する。
	「わくわくスタディ」「学習の約束」の共通実践を工夫・改善し、家庭でもICTを有効活用して、児童の主体性を高め、学習習慣・読書習慣・学習規律の定着を図る。	B	○「わくスタ」の取組は定着している。ICTを活用した家庭学習も定期的に丁寧に行われおり、家庭学習として浸透している。 ●学習内容がマンネリ化したり、取組がいい加減になっている様子が見られる。学習課題(何をすればよいのか)を見つけるのも難しい面が見られる。	・朝の活動時間を利用し、「わくスタ」の学習内容を見直したり、学習課題を提示したりする。実態に応じて助言を行う。
	「キャリアパスポート」の活用を家庭と共通理解し、夢や志の実現に向け、個性を生かしながら自己成長を図るキャリア教育を推進する。	B	○七夕で将来の夢や希望について考えられた。 ●4月に考えた、自分のなりたい姿やそのためにすることなどを確認したり、振り返ったりすることが十分にできなかった。	・学期の最初に考えためあてを、定期的に確認したり振り返ったりする。 ・「キャリアパスポート」を保護者の方に目を通していただけるよう、週予定等で知らせる。

豊かな心の育成	「言葉を大切に作る学校」として挨拶等の言語環境を整えるとともに、周囲に良い影響を与え合う望ましい人間関係を築き、互いに認め合い、高め合える学級経営を実践する。	A	○子どもたちの模範として、礼儀や共感に関わる態度や言葉使いを意識して生活すると共に、感染症対策や熱中症対策を講じながら、ペア学習やグループ学習、ICTを活用した交流などの工夫ができた。 ○HPを通じて、学年・学級の取組を家庭に向けて積極的に発信することができた。	・共感的な児童理解と細やかな指導を継続し、子どもたちの模範となるように努める。 ・学級や学年の様子が保護者に伝わるように、こまめに情報交換を行ったり、HPに記事を掲載したりする。
	生徒指導の三機能（自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係）を常に働かせ、児童のよさを多角的・多面的に捉え、「積極的な生徒指導」を実践する。	A	○個々の児童を多面的多角的に捉え、それぞれの児童が活躍できる場を設定し、主体性をもって諸活動に取り組ませることができた。 ○学年会や生活支援委員会等で、児童の成長やよさを複数の職員で共有することができた。	・児童が自己有用感をもち、主体的に活躍できる学年・学級作りを継続する。 ・学年・学級で情報共有をし、児童のよさを多角的・多面的に捉える。
	特別の教科「道徳」を核として「考え・議論する」道徳を充実させ、家庭や地域社会との連携を図りながら発達段階に応じた道徳性を養う。	A	○学年内で話し合いながら、スタンダードを活用した授業作りに努めることができた。	・学校での取組や授業の様子を、通信やHP等で家庭・地域に発信する。 ・積極的な授業公開を行い、道徳スタンダードの定着や見直しを図る。
	「なかよし月間」「なかよし旬間」を核に年間を通して人権教育を充実させ、人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。	A	○教職員向けに人権感覚チェックリストを配付し、教職員の人権感覚の涵養に努めることができた。 ○人権だよりを作成し、人権教育の取り組みについて保護者への啓発を図った。	・「なかよし月間（後期）」や愛校会を中心とした活動の充実 ・人権感覚チェックリストによる教職員の人権感覚の涵養 ・人権教育部会の定期的な開催
	生活支援委員会を定期的に開催し、保護者や外部機関との相互理解の下、いじめや不適応・問題行動等の早期発見・早期解決を図る。	B	○生活アンケートの内容をきちんと受け止め、学年間で情報を共有して対応を検討することができた。 ●日頃の児童の様子をより観察すると共に、保護者と連携をとりながら未然防止・早期発見・早期解決に努める。	・日常の観察をより深め、問題の未然防止・早期解決に努める。 ・電話、連絡帳等で保護者との連携を深め、共通理解・共通実践する。
	SCや心の教室相談員、SSWとの連携を深め、児童や保護者が安心して相談できる教育相談体制や支援体制を整える。	B	○生徒指導担当教員を窓口として、SCによるカウンセラーを活用することができた。 ●学校としての相談窓口の受け皿が狭い。 ●生活支援委員会で挙げた児童の情報を、SSWと共有することができなかった。	・特別支援コーディネーターを相談窓口として、SCやSSW、発達支援教室などの関係諸機関と連携できるよう、通信など発行して保護者に周知する。 ・生徒指導担当教員と相談の上、生活支援委員会で挙げた児童について共有できるシステムを作る。
健やかな体づくり	体力向上プランに基づき体育的活動を充実させ、家庭とも連携して運動習慣の定着と運動の質的・量的確保を推進する。	B	○集会や行事を活用しながら、運動することへの楽しさを味あわせることができた。 ○体育部で共有しながら、運動の質的・量的確保に努めることができた。 ●家庭と連携した運動習慣の定着を図ることがなかなかできなかった。	・学校での取組や授業の様子を、通信やHP等で家庭・地域に発信する。 ・家庭と連携した運動習慣の定着が図れるよう、ICTを活用し家庭で運動をする環境づくりを行う。
	感染予防を核とする健康教育や栄養教諭を中心とした食育の充実により、基本的な生活習慣や望ましい食習慣の定着を図る。	A	○学校の新しい生活様式を核として、学校全体で感染症対策が徹底できた。 ○夏季休業に向けて生活ふりかえりの取組を実施し、自らの生活を見直す機会が設定できた。	・栄養教諭を中心とした望ましい食習慣の定着により健康な体づくりを推進する。 ・新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を踏まえた感染症対策を徹底する。
	実践的な安全教育により、自他の生命や健康を守る危険予測・危機回避能力を育成する。	A	○交通少年団活動（交通安全運動期間の呼びかけ）や各学級での日頃からの積極的な指導により、大きな事故なく過ごすことができた。 ●引き渡し訓練の実施など、家庭との連携を密にした安全教育を行っていく。	・日常的に自分の身は自分で守るよう、生活安全指導を繰り返し行う。 ・引き続き、定期的に交通安全について呼びかけていく。
組織的で活力ある学校づくり	長期的な視点に立って本校の教育課題や地域の実態に応じた特色ある教育課程をマネジメントする。	A	○各学年で、地域の特色を生かした学習計画を立て、活動することができた。 ●より多くの地域の特色について知識を広げる必要がある。	・各学年の行事や活動内容を再整理することで、地域の実態や特色を再確認し、共通理解を図る。
	「人事評価制度」や「教員育成指標」を活用して学校経営参画意識を高め、職員一人一人が役割を自覚するとともに、創意・工夫を発揮して組織的に学校運営に取り組む。	B	○当初面談を通して、学校経営方針とリンクした業績評価の目標設定を行うことができた。 ●職員一人一人が創意・工夫を発揮できる場を設置できなかった。	・経営方針や努力点に基づく、一人一人の役割の自覚。 ・経営方針とリンクした目標達成に向けた実践。 ・一人1授業による目標達成状況の管理職による確認。
	「規律確保行動計画」に則り、服務規律を遵守し、常に教育公務員としての使命感と責任感を常に自覚して職務を遂行する。	A	○県教育委員会版「服務規律の確保チェックリスト」を実施し、学校全体の結果をもとに、「服務ガイドライン」を活用した研修を計画的に行い、知識と意識を高め、服務規律の確保に努めることができた。 ○毎月、「服務規律確保チェックリスト」で振り返り、一人一人が自己点検を行うとともに、学年内で声を掛け合いながら、服務規律の確保に努めることができた。	・県教育委員会版「服務規律の確保チェックリスト」の結果を踏まえた計画的な研修を行う。 ・「服務規律チェックリスト」による毎月の確認をする。 ・県内外で発生した非違行為を職員に知らせ、本校で発生したと仮定して当事者意識を高める。

【登校について】
登校方法の改善に向けたご意見、ありがとうございます。集団登校への変更は、PTAの地区委員会など保護者の皆様で必要性等について意見交換を行っていただき、校区全体の総意として一致が得られる原案づくりが必要と考えます。

【通学バスについて】
安全・安心なスクールバス運行へのご意見、ありがとうございます。乗務員の対応については学校から委託先のバス会社に伝え、改善をお願いしました。また、荒天時の到着時間の配慮についても、委託先に可能な範囲で協力を依頼しました。

【下校について】
スクールバスの発車時刻に遅れないよう、帰りの会の終了時刻の遵守に各学級で努めてまいります。

【行事について】
○離任式について
年度末の離任式での異動者の伝達は、教育的配慮からの補助的な対応であり、人事異動の発令は4月1日付けが正式なものとなります。文字媒体での公表は事前に行えませんので、ご理解ください。
○学級懇談会について
ご家庭と担任との連携へのご意見、ありがとうございます。感染状況の推移を踏まえながら、学級懇談会の再開を検討してまいります。担任と個別にご相談を希望される場合は、ご遠慮なく担任までお声がけください。

○宿泊学習の再開について
宿泊学習の再開は、旅行先の感染発生状況・宿泊施設の感染対策・緊急時の保護者協力等を踏まえ、保護者の方のご意見も参考にしながら実施の可否を判断してまいります。

【おたよりについて】
教育のデジタル化の一環として紙の通信は必要最小限にと考えております。業務改善やコスト見直しの点からもデジタル化の推進は不可欠です。Webでも学級の息づかいをお届けできるよう、内容やコメントの工夫に努めてまいります。

【ホームページについて】
Webページを日々ご覧いただき、ありがとうございます。保護者専用のページでは、毎週各学年で掲載を続けております。学校通信に掲載のID・パスワードをご利用いただき、専用ページをご訪問ください。不明の点があれば、遠慮なく学校までお問合せをお願いします。

【置き物について】
学用品の持ち帰りや学校での保管については、児童の体への負担を考慮し、使用状況に応じて本校でも工夫しております。ICT端末の持ち帰りの進展と併せて、持ち帰る用具類の数や回数について、改めて確認してまいります。

【わくスタについて】
子どもたちの主体的な学びの充実に向けた「わくスタ」へのご意見、ありがとうございます。2学期から、朝の授業前の時間を活用し、「わくスタ」の意義や取り組み方に関するガイダンスを行っていく予定です。一人一人の子どもたちの関心や意欲を高められるよう、取組に対する励ましはもとより、課題の立て方や探究を深める視点などについても個に応じた支援や助言を行ってまいります。

【人権教育について】
多様性を尊重する視点を育む教育へのご意見に感謝申し上げます。人権に関する学習と関連付け、道徳や学級活動の中で男女の協力や国際理解について指導を行っています。小学生の発達段階を踏まえ、外見にとらわれず互いの人格を認め合える望ましい人間関係づくりに努めてまいります。

組織的で活力ある学校づくり	今秋の家庭科関プロ大会の授業公開に向けて、「はばたく群馬の指導プランⅡ」等を踏まえた校内研修を通して実践的研究を積み上げ、教員の指導力を高める。	A	○関プロ大会に向けて、役割分担を決めて準備に取り組むことができた。また、授業実践に向けて他校で事前に授業を行ったもったり、行うための打ち合わせをしたりすることができた。	・発表に向けて、模擬授業を計画的に行い、授業準備を進めていく。 ・指導案など発表に必要な資料を確認し、作成を進める。
	校内研修やメンター研修を通して、互いに高め合う同僚性あふれる職員集団を形成する。	A	○授業づくりや指導案作成、分析など役割分担を行い、関プロ大会に向け、組織的に取り組むことができた。	・メンター研修等の資質向上研修と関連させ、教職員相互の情報交換を充実させる。 ・一人1授業を通じた指導力の向上、管理職による授業参観と指導、助言の充実。
	特別支援Coを核として「個別の教育支援計画・指導計画」を整備・活用し、児童一人一人のニーズに応じた支援を充実する。	A	○生活支援委員会での報告をもとに、担任から相談のあった児童については、特コが参観し、担任へ見取りをフィードバックした。また、外部の専門相談員や専門アドバイザーにも参観を依頼し、担任へ適切なアドバイスをいただいた。	・校内研修で特別支援教育について理解を深める。 ・学校全体の特別支援教育への共通理解を深めるため、校内研修の開催やお便りの発行する。
	言語指導の工夫・改善に努め、通級児童の実態に応じた課題解決を図る。	A	○合同研修や教室研修における実践研修を通し、指導力が向上した。 ○個別の指導計画を活用し、個々の障害の状態に応じた指導をした。 ○タブレットを積極的に活用した。	・合同研修、教室研修、夏季研修における実践研修を通し、さらなる指導力の向上。 ・個別の指導計画を活用し、個々の障害の状態に応じた指導の継続。 ・タブレットを積極的に活用した授業を行う。
地域に根ざした信頼される学校づくり	東中学校やこども園等と日常的に連携し、系統性・一貫性・連続性のある指導を行う。	A	○幼小保こ連携推進会議を実施。こども園等との情報交換、情報共有を図ることができた。 ○小中間の授業参観の実施を行った。 ●小中連携推進事業はコロナ感染拡大予防のため、実施できることが限られた。	・小中間における定期的な授業参観の実施、こども園等との連絡等、コロナ禍でも行える連携事業を通して、中学校や保育園等との連携を計るとともに、その内容を互いに共有する工夫を行う。
	Webページや各種通信等を活用し、本校の取組を家庭・地域へ積極的に配信する。	A	○コロナ禍で学校公開が制限される中でも、保護者専用ページを活用することで、児童の様子や必要な情報を提供できた。 ○セキュリティの高い保護者専用ページを活用することで、学級通信の代わりとなるような、詳細な児童の日常の様子を伝えることができた。 ●1学期初め頃の、Webページ更新が学年で差が出てしまった。	・学年間でHPの更新に差が生じないよう、更新頻度を全体共有していく。 ・セキュリティ保護のためにWebページの管理について、全職員に周知徹底する。
	学校評価や学校評議員制度を活用し、保護者や地域からの情報を収集・分析することで、学校課題を把握し、年度内での改善を図る。	A	○1学期の学校評価を通して、学校課題を明確にすることができた。 ●学校の取組が家庭や地域と共有できるような情報発信のさらなる強化が必要である。	・第1回学校評価の成果と課題を生かした学校課題の改善。 ・学校課題の共有と2学期の方策の着実な実施。
	学校家庭地域連携推進会議を活用し、学校課題を熟議し、協働できるようにする。	A	○家庭や地域の声を聞き、学校課題を共通理解することができた。 ●学校として課題を受け止め、さらに改善できるよう努めていく。	・今後も引き続き、家庭・地域と協働して学校課題を改善できるようにしていく。
	スクールサポートボランティア「とみさぼ」の取組を保護者・地域に紹介し、年間指導計画を踏まえて、外部人材を積極的に活用する。	A	○コーディネーターや担当教員との連絡を密にし、円滑な運営に努めることができた。 ○学年主任の協力により、年度頭に年間指導計画を作成できた。 ●Webページで「とみさぼ」の活動の様子を掲載したが、まだ不十分である。	・見通しをもって計画的にボランティアを募集していく。 ・「とみさぼ」の活動があった際に、Webページや通信に活動の様子を掲載するよう、学年主任に呼びかける。

【学級経営について】

一人一人の子どもたちの健やかな成長や確かな学力の向上に向けて同一歩調で指導・支援を積み重ねていけるよう、校内外の教員研修、学年団での打ち合わせ、管理職による授業参観、生徒指導部会での協議、スクールカウンセラー等の専門家の活用など組織的な対応を実践してまいります。また、お子さんにとってクラスが安心して過ごせる場となるよう、担任とともに、管理職・心の教室相談員・スクールカウンセラーなど職員全体で学級づくりや児童とのより良いコミュニケーション形成に努めてまいります。今後も、学習や学校生活に関わるご相談については、今回のアンケートに限らずご意見をお寄せください。

【外トイレについて】

児童・教職員数の減少により、外トイレは恒常的に掃除が行えないため、行事時の使用に限定しております。また、休日の開放は、防犯のため行っておりません（社会スポーツ団体が校庭を使用する際のトイレ開放については、別途検討いたします。）。

【教育相談について】

お子さんの成長段階に寄り添い、養護教諭の専門性と経験を生かして保護者の方のご相談に対応してまいります。お気軽にお声がけください。

○地域の方への回答

【挨拶について】

挨拶は明るい地域づくりの基本であることを朝礼や学級活動で児童に伝え、進んで挨拶を行う態度を根気強く育ててまいります。人生の先達として良きお手本を今後もお示しいただくをお願い申し上げます。児童数減少に伴いご自宅近くで子どもを目にする機会も限られておりますが、気になる姿が見られましたら学校までご連絡をお願いいたします。

【アンケートについて】

コロナ禍の中、学校や子どもたちとの接点も少なく、アンケートに答えるのは難しいと思いますので、ご回答は可能な範囲で構いません。直接児童に接してのご意見だけでなく、学校のWebページの記事や画像をご覧いただきご意見をお寄せいただくことでも結構です。

【情報発信について】

学校通信の地域回覧を活用し、これからも本校の取組を紙面でもお伝えしてまいります。スマホでインターネットに接続し「富岡小」を検索していただくと、本校のWebページの接続先が上位で掲示されます。ぜひお試しいただくとともに、お仲間内にもご紹介いただければ幸いです。

健康で安全・安心な学校づくり	感染防止マニュアルや学校安全管理マニュアルを学校・家庭間で共通理解し、危機管理を徹底する。	A	○各教室で決められた場所にアレルギー詳細献立と食べられない物を記入した盛り付け表を保管することで、どの教員でも対応ができるようになっている。 ●教員間では感染防止マニュアルや安全管理マニュアルを周知・徹底していても、保護者には伝わっていない部分もある。	・食物アレルギーの児童への対応を細かいところまで（代替食についてなど）今後統一して対応できるように、文章化し、全職員で共通理解していく。
	保護者と連携して通学路や学校施設の安全点検を徹底し、迅速に問題点を改善する。	B	○毎月校舎内外の施設設備の点検を行い、危険箇所等を確認することができた。 ○保護者・地域からの情報・要望をもとに通学路の危険箇所について確認を行った。	・校舎内外の毎月の点検の徹底と修理等改善依頼への迅速な対応 ・通学路危険箇所の点検結果を基にした安全マップの改定
	適切で効果的な予算執行により、教育環境の最適化を推進する。	A	○プリンタの新規導入により、教材、配布物の迅速な作成、掲示、配布等を迅速に行うことにつながられた。 ●健康で安心・安全な学校づくりを推進し、管理職、教職員、教育委員会等との連携を密にして老朽化、経年劣化による危険箇所の早期発見、早期改善を継続したい。	・課題箇所の発見、確認、改善を迅速に行い、健康で安心・安全な学校づくりの推進 ・物品等の計画的購入と学びの環境の充実の促進
	富岡小学校施設長寿命化ワーキンググループでの取組を通して、将来にわたって安心で快適な学校施設の在り方について検討する。	A	○特に呼びかけを行わなくても、1学期の職員の達成度は100%であり、日頃から整理整頓を心がけていることが分かる。 ●教室や教材室以外の場所も整理整頓ができるように職員による呼びかけをおこなったり、SSSや公務員に依頼したりする必要がある。	・比較的時間がある夏休みや冬休み等に、整理整頓ができるようにC4thで呼びかけを行う。 ・教室や教材室以外の場所を整理整頓したり、公務員やSSSに整理整頓を依頼したりする。
働き方向上	分掌業務の見直し・改善を通して働き方改革を着実に進め、さらなる校務の効率化・スタンダード化を図り、持続可能なシステムづくりを継続する。	A	○声かけによる連携で、加重負担緩和を進められた ●仕事分担とバックアップ体制を明確化し、緊急時にも即応できる体制づくり（複数担当制等）を推進したい。	・仕事量適正化、総量規制、適切な仕事分担、連携による加重負担解消の推進 ・「マニュアル化」「データ共有（一元）化」、「ペーパーレス化」を推進し、データ、情報の共有化、引き継ぎをスムーズに進める。
	勤務時間の適正な管理や実態把握により、職員のワークライフバランス（ベスト・エデュケーション/ベスト・コンディション）やメンタルヘルスの保持に努める。	A	○定時退勤日や週休日の勤務解消やライフワークバランス確保への意識が共有されている。 ●一学期の時間外勤務時間が45時間超となった教員割合は、46.2%である。年度始や行事月の長時間勤務が昨年度より増加傾向にある。 ●月の退庁時間平均が19時を下回ることができなかった。時間枠を意識した働き方を各自が工夫することを啓発する必要がある。	・退庁時間の実態を毎月レポートとして見える化し、ゴール（19時退庁）に向けて必要な職務の効率化や優先順位付けを促していく。 ・在校時間等記録（グラフ）を活用した自己の働き方の振り返りを行う。

【安全について】
通学路の安全確保については、引き続き市・地域・警察・教委と連携して、危険箇所の解消に努めてまいります。
通学路の変更については、本校PTAの地区委員会を中心に情報共有や意見集約を行い、必要に応じて具体的な見直し案を検討してまいります。

【学校から保護者・地域の皆様へ】
皆様からの激励・ご意見・ご指摘は、私たちにとって、心の支えであり、信頼される学校職員として成長する貴重な助言です。
感染症収束が見通せない状況の中、富小の子どもたちが希望と意欲をもって毎日登校できるよう、2学期も、富小教職員一同、より良い学校づくりに挑んでまいります。